



がん哲学外来市民学会 第6回大会
大会長あいさつ

がん哲学外来市民学会第6回大会 会長

沼田 千賀子

(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター 教授)

「がん哲学外来市民学会 第6回大会」を関西で初めて、この神戸の地で開催できることは、大変喜ばしく光栄に感じています。ここにお集まりの皆さまをはじめ関係者各位のご尽力に対して、厚く御礼申し上げます。

本大会は、「役割を果たす」をメインテーマに企画・構成いたしました。よく「人は誰でも必ず果たすべき役割を持って生まれてくる」と言われますが、現代人は、“人生の目的”や“自分のいのち”をどのように使って社会に役立てていくかを考える暇もなく、日常の生活に忙殺されているというのが現状ではないでしょうか。がんを経験することは、苦しい闘病生活や社会的・精神的な苦痛を伴うとともに。自分の人生に向き合うという深い時間も用意されます。それはある意味、何よりも辛い時間かもしれませんが、同時にがんになって輝く人生があるのも事実です。

先行き不透明で閉塞感が漂う現代、多くの方が生きる目的や希望を見失っています。そのような中で、がん経験者の方が、生き生きと前向きに人生を歩んでいる「病気であっても病人ではない」姿は、希望の光になるのではないのでしょうか。

今大会では、素晴らしい講演や参加者同士の情報交換、討議を通して、共に学び成長する機会になることを期待しています。

また今年、神戸開港から150年を迎えます。神戸港は天然の良港として古代・中世より大陸や朝鮮半島との交易拠点として賑わい、1868年の開港以来、日本を代表する国際貿易港として重要な役割を果たしています。ここ神戸より情報発信し多くの方が集う交流拠点になることを願っています。港だけでなく神戸牛をはじめ美味しい食べ物と緑豊かな六甲山、温泉もお楽しみいただきたいと思います。